

適性検査Ⅰ

注 意

- 1 問題は **1** のみで、5 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 **受検番号**を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

1

次の文章を読み、あとの問題に答えなさい。

(*印のついている言葉には本文のあとに〔注〕があります。)

*
タイの海岸に打ち上げられたクジラの胃から、80枚まいをこえるプラスチックの袋ふくろがでてきたというニュースが、2018年6月に流れました。5月末に打ち上げられたこのオスのクジラは、残念ながら死んでしまいました。そこで、おなかを切り開いて調べてみたところ、こんなたくさんの袋がみつかったのです。重さにして約8キログラムにもなったといいます。この「プラスチックの袋」って、いったいなんだと思っ

きみたちも見たことがあるはずですよ。スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどで買い物をするとき、うすくて白っぽい「レジ袋」に入れてくれるよね。これが、代表的な「プラスチックの袋」なんだ。

クジラは、これらの袋をえさとまちがえて飲みこんだ可能性がります。プラスチックの袋をたくさん飲みこんでしまったために、ほんとうに必要な栄養をえさからとることができなくなって死んだらしいのです。

もちろん、プラスチックの袋は海で作られたわけではありません。陸に住んでいるわたしたち人間が作り、そして使ったものです。それが

海に出ていってしまったのです。

みなさんは、海水浴に行ったとき、使い終わったレジ袋をきちんと持ち帰りましたか。ごみ捨て場でないところに置いてきてしまったことはないですか。こんなレジ袋は、風にふかれたり波にさらわれたりして、すぐ海に入ります。

それだけではありません。川の水は流れて海に出ていくので、川のまわりに捨てられたプラスチックの袋も、やがては海に出ていってしまいます。

つまり、わたしたちの生活から出たプラスチックの袋は、陸上できちんと処理しゅりされないかぎり、やがては海に出ていってしまうものなのです。

それをクジラやウミガメがまちがえて食べる。わたしたちが便利な生活をするために使っているプラスチックの袋が、海の生き物たちを苦しめているのです。

このように、わたしたちが使ったプラスチックは、ごみとして海にたくさん流れていっています。たしかに、きれいな海がプラスチックのごみで汚よごれるのは困こまるけれど、わたしたちは陸くで暮くらしているから、

いったん海に流れ出たプラスチックごみは、わたしたちの生活にはあまり関係がない。そう思うでしょうか？

そんなことはけっしてありません。海に出たプラスチックのごみを、わたしたちは、まわりまわって食べてしまっている可能性があります。

プラスチックは、太陽の光をあびるとぼろぼろにこわれやすくなり、海では波の力で細かくくだけていきます。どんどんくだけて、大きさが5ミリメートルより小さくなったものを「マイクロプラスチック」といいます。「マイクロ」は、英語で「とても小さい」という意味です。

このマイクロプラスチックが、東京湾を泳いでいるカタクチイワシの体内からみつかりました。2015年8月にとった64匹のカタクチイワシを調べたところ、その約8割にあたる49匹からマイクロプラスチックがみつかったのです。えさと間違えて食べてしまったようです。海岸から近い海に多く、生息するカタクチイワシは、めざしやしらす干し、煮干しとして、わたしたちもよく食べています。ふくまれていたマイクロプラスチックは1匹あたり最大で15個、平均すると2.3個でした。合計150個のマイクロプラスチックが多かったのは、その86%にあたる129個の小さなかけらでしたが、7%の11個は「マイクロビーズ」でした。

マイクロビーズというのは、ふだん使う洗顔料や歯みがきの中に入っている、プラスチックの非常に小さな粒のことです。顔を洗い流したり口をすすいだりすれば、このマイクロビーズは下水に流れこみます。それが下水処理場でうまく取りのぞかれずに、海に出てしまったと考えられています。いまは、プラスチック製のマイクロビーズを使わないようにする動きがありますが、すでに使われたものが海にたまたま漂っているのです。

カタクチイワシは、ふだんからわたしたちがよく食べる魚です。さきほど、ごみは流れて海に出るとお話ししました。ですが、このカタクチイワシの話からすると、海がごみの終着点ではないということですね。プラスチックはごみとなって海に出て、またわたしたちのところに、しかもわたしたちの体にもどってくることになります。

プラスチックは、このように世界中にごみとして広がってしまっています。プラスチックを作りだしているのは、わたしたち人間ですから、このまま放っておくわけにはいきません。世界のあちこちで、プラスチックごみを減らす取り組みが始まっています。

世界の主要国が地球全体の問題について考える首脳会議(G7)は2018年6月、それぞれ自分の国でプラスチックごみを減らす努力を

して「海洋プラスチック憲章」^{*けんじょう}をまとめました。プラスチックの使用を減らしていくことを、この場で世界に約束したのです。

その翌月^{よくげつ}、世界的なコーヒーチェーンは、使いすてのプラスチック製ストローの使用を2020年でやめると発表しました。ハンバーガーチェーンも、^{*}英国と^{*}アイルランドでプラスチック製ストローを紙のストローにかえていくといっています。日本でも、こうした動きがでています。

プラスチックのごみやマイクロプラスチックについての話を、テレビのニュースや新聞で見聞きすることが増えてきました。テレビや新聞は、世の中でおきていることをなんでも伝えてはなりません。それが社会にとって大きな問題であり、みんなで解決の方法を考える必要があったり、一人ひとりがどうしたらよいかを考える助けになったりすることがらを選んで、ニュースとして伝えます。つまり、プラスチックのごみは、^{せんもんか}専門家だけが考えればよいのではなく、みんなで考える必要がある問題だということです。

みなさんのまわりを、ちょっと見てみてください。シャープペンやボールペン。スーパーマーケットで売っている肉や魚の容器。^{あうせいせんい}合成繊維でできた衣服。これらはすべてプラスチックです。プラスチックは、わたしたちの生活のいたるところに入りこんでいます。

ふだんの生活では、そのプラスチックがやがてどうなるのかを、あまり考えていかなくてもいいかもしれません。じょうぶで長く使えるというプラスチック製品の長所が、いったんごみになれば、自然に分解されることもなく、いつまでも地球を汚したままになるという短所が変わります。プラスチックは、ごみとして考えた場合、あつかいにくい、とても困ったものなのです。

プラスチックごみは、紙などのほかのごみとは分けて回収^{かいしゅう}し、リサイクルすることがすすめられています。では、このリサイクルは、何のためにするのでしょうか。

たとえば、水では汚れが落ちにくいのでお湯を使ったりします。お湯をわかすにはエネルギーが必要です。エネルギー源^{げん}として石油を使ったとすると、必要な石油の量は、そのプラスチック製品を石油から新しく作るより多いという見方もあります。リサイクルのためにきれいに洗おうとしてお湯を使うと、かえってたくさん石油を使ってしまうことになるのです。

また、ジュースを売るとき、ペットボトルの代わりに、くりかえし使えるガラスのびんを使ったりしましょう。たしかにプラスチックの節約にはなりますが、重くなるので、トラックなどで運ぶ^{はこ}ときに、より多

くのガソリンを使うことになります。プラスチックを使わないようにするためにガソリンをたくさん使うというのでは、何のためにプラスチックを節約しているのかわかりません。

食べ物を包むプラスチックは、その食べ物が傷まないようにする役目もはたしています。もしプラスチックを使わないことにすれば、食べ物が傷んだりくさったりしやすくなって、食べられずに捨てなければならぬ食べ物が増えるかもしれません。これも資源しげんのむだ使いです。

プラスチックをどのようにリサイクルすればよいのか。プラスチックをできるだけ使わないようにしたとき、かえってむだやごみが増えるのではないか。どうすれば資源の節約になり、しかも、プラスチックごみで汚れていない地球でくらすことができるのか。プラスチックは、わたしたちの生活に深く入りこんでいるだけに、さまざまな社会の問題とも結びついています。こうした問題に答えるには、プラスチックごみのことだけではなく、わたしたちの暮らしや社会のしくみ全体を考えていかなければなりません。わたしたちはこれから、どういう社会をどのようにして作っていけばよいのか。それは、わたしたち一人ひとりが考えなければならぬ問題です。

(保坂直紀「プラスチックのおなかからプラスチック」による)

〔注〕 タイ—— タイ王国のこと。

生息—— 生物がすんで生活していること。

主要国—— 世界のなかで中心となっている国々。

首脳会議しゅのうかいぎ (G7)—— (日本・アメリカ・イギリス・ドイツ・

フランス・カナダ・イタリア) の7か国の大統領や首相しゅしやうたちが世界の問題について

話し合う会議。

憲章けんしょう—— 理想として決めた、人々にとって大切な

決まり。

英国—— イギリスのこと。

アイルランド—— イギリスの主要部をなす島の西方にある島。

合成繊維ごうせいせんい—— 化学繊維のうち石油などからつくったもの。

〔問題1〕

「クジラの胃から、80枚をこえるプラスチックの袋がでてきた」とありますが、これはなぜですか。五十五字以上七十字以内で書きなさい。

〔問題2〕

「海に出たプラスチックのごみを、わたしたちは、まわりまわって食べてしまっている」とありますが、「わたしたち」が「食べてしまっている」とはどういうことですか。五十五字以上七十字以内で書きなさい。

〔問題3〕

「わたしたちの生活に深く入りこんでいる」とありますが、プラスチックとわたしたちの生活とのかかわりの中でどのような問題点があり、その解決を目指す上でどのようなことを考えなければならないと思いますか。文章全体の内容にそって、四百二十字以上四百六十字以内で書きなさい。ただし、あとの条件にしたがうこと。

条件 次の三段落構成にまとめて書くこと

- ① 第一段落では、プラスチックとわたしたちの生活とのかかわりについて、本文の内容にそって述べる。また、そのときにプラ

スチックがわたしたちの生活とかわっている理由についても述べること。

- ② 第二段落では、①で書いたことをいまえ、地球全体にいきよつをあたえろと考えられる問題点について述べる。

- ③ 第三段落では、②で書いたことの解決を目指すために必要なこと、および、あなたが日常生活の中で取り組めることを述べる。

※ 全体として四百二十字以上四百六十字以内で書き、各段落の分量は自分で考えること。

なお、次の《注意》にしたがって書きなさい。

《注意》

段落をかえたときの残りのますめは字数として数えます。

ただし、問題1・問題2は、一ますめから書き、段落をかえてはいけません。

、や。や」なども、それぞれ字数に数えます。